

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野:	少子高齢化、社会保障
氏名:	牛窪恵 有限会社インフィニティ代表取締役マーケティングライター
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	<p>1、まず、総人口は2030年までに約1000万人減少、さらに生産年齢人口率(15～64歳)が約58%と現状の5%減、老年人口指数(65歳以上)が54.4と約18%増になる点も見逃せない。今後、労働力不足による人手不足倒産が、中小企業を中心に広がる恐れが高い。</p> <p>2、また2030年、総人口の約半数(47%)がシングルに、生涯未婚が男性の3人に1人(約30%)、女性の4人に1人(約23%)に達するから、少子高齢化や社会保障費の増大はもちろん、「誰が親を見るか」との介護問題が企業や社会に与える影響は甚大になる。</p> <p>3、そして2030年までに80代以上女性の単身世帯が急増、約130万世帯が2倍近い256万世帯に及ぶと見られる。「地域」「遠隔」による介護も課題になる。</p>
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	<p>1では、303万人程度増が見込まれる「働く女性」の推進や、シニアの健康寿命を延ばし働くシニアを増やすこと、及び人口知能の活用や留学生をより長く雇用できる法改正などが望まれる。</p> <p>2では、「働きながら介護する」社会を前提に社会保障等を考え直さねばならない。その際に「在宅勤務」と介護休暇が1つのキーになる。ただ社会保障費の増大は抑えきれず、場合によってはベーシックインカム寄りの抜本的な見直しが必要だろう(3は地域経済に関連するので省略)。</p>
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	<p>カギは「セーフティネット」の拡充だ。20代の若者調査・取材を10年以上続けてきたが、「増子化」社会を目指すなら、出産・育児ケアだけでなく「恋愛」「結婚」する意志がない若者のケアも必要だ。</p> <p>なにしろ、現20代男女の7割に恋人がおらず、その4割が「恋人は要らない」と回答(内閣府)。今年の民間調査(明治安田生活福祉研究所)では、「結婚したい」20代が、男性で3年前の67%から39%に、女性で同82%から59%に激減した。根底にあるのは、非正規男性らに広がる「将来(年金)不安」であり、解決するには非正規にも社会保障を確保する制度設計や、限定正社員はじめ多様な働き方を促す仕組み作りだろう。財源確保は、国民理解を得たうえでの消費増税が主と考える。</p>